

IV 成長を産み出す（活力）

福井の地理的優位性、歴史的特性を最大限に活かし、アジアの豊富な資金・活力を福井の産業・経済に取り込み、アジアとともに成長します。

福井の優れた技術や人材など先人から受け継いだ貴重な財産を「後継者」を育て引き継ぐとともに、さまざまなニーズに応え革新を繰り返すことによって、新たな成長を産み出します。

そのために、^{イノベーション}新産業育成と^{リノベーション}地場産業再生による産業構造の変革（「福井の産業」新展開）、農林水産業の成長産業への挑戦（**挑戦する農林水産業**）、アジアとのネットワーク強化による成長戦略（**アジアの成長と活力の取り込み**）を進めます。

IV-1 「福井の産業」新展開

アジアの国々が目覚ましい経済成長を遂げる一方、日本社会においては、高齢化の進展に伴い消費のスタイルが変わりつつあります。福井が新たな成長の道を切り開くための鍵は、技術革新や人材育成、企業誘致、多様なニーズに応える商品開発です。

日本の「産地」としての技術集積を最大限に活かし、技術革新と人材育成を進めることが、福井の産業のこれから10年間のめざすべき方向となります。地場産業、伝統的産業の再構築を図るとともに、新産業への展開やアジア市場の販路開拓を進め、新たな「産業群」を創出します。

産業を支えるのは「人材」です。将来、福井の産業の担い手となる「後継者」を育成・確保することが何より重要です。これからの技術革新や新ビジネス創出を担う優れた産業人材を育成します。さらに、失業率の低さや求人倍率の高さなど全国トップクラスの雇用環境を維持・向上させ、安心雇用を実現します。

福井の新産業の育成と地場産業の再生などの動きをつくり出し、「福井の産業」を次のステージに引き上げ、次世代に引き継いでいきます。

(1) 「これぞ福井」の^{わざ}技と産地の進化

(2) 「後継者ブランド」企業の創出

(1) 「これぞ福井」の^{わざ}技と産地の進化

- 福井は、繊維、眼鏡、和紙、漆器などの地場産業で培った技術を活かした、素材創生・加工技術、原子力関連技術、蓄電池関連技術など「実は福井」と呼べる優れた技術や製品が数多くあります。また、建設、小売、卸売、物流などさまざまなサービスが地元企業によって提供されています。

このような独自の技術やさまざまなサービスを継承・発展させてきたのは、福井の経済と県民の暮らしを支えている多くの中小企業です。

福井の企業が持つものづくり技術を活かし、また企業と団体と行政がスクラムを組んで、高齢化や環境など今後ニーズが高まるビジネス分野への挑戦を継続的に進めます。
- 「環境・エネルギー」や「健康長寿」をはじめ福井の優れた地域資源を活用したビジネスモデルをつくるなど、地域の強みや特色を活かした新しい産業群を育成します。
- 企業間のネットワークを広げ、福井の技術と人材を守り育てることによって、新たな分野や業種への展開、国内外への販路開拓を進め、地場産業を再生します。
- 地場産業が技術革新、販路開拓を進めるための企業誘致にさらに力を入れるとともに、立地企業の定着に努めます。
- ^{イノベーション}新産業育成、^{リノベーション}地場産業再生、^{インバイト}企業誘致を推進することにより、新しい「福井の産業」を産み出し、「実は福井」から「これぞ福井」の技と県民が誇れる技術やサービスの開発と集積を進め、福井の産地を次の世代に引き継いでいきます。

(2) 「後継者ブランド」企業の創出

- 福井の各産業分野において活躍する熟達者の卓越した技能を「ふくいの後継者」に引き継ぐための仕組みをつくり応援することによって、福井のものづくりや農林水産業の技術、優れたサービスを提供する中小企業の基盤を維持・強化します。
- また、技術と技能の蓄積を活かした中小企業の企業内創業を応援するなど、地域産業の新しい活力づくりを推進します。
- 若者、女性、障がい者、高齢者が等しく安定した仕事の機会を得られるよう、企業や団体、学校、行政が一体となって雇用の場を確保し、全国トップクラスの水準にある失業率の低さ、求人倍率の高さを維持・向上します。

製品開発や技術革新を担う専門的な知識・技術を有する人材、医療・福祉など需要が増加する分野の人材、農林水産業や伝統的産業など後継者不足が問題となっている分野の人材など、分野別に雇用の場をきめ細かく確保し広げていきます。
- 福井は人口当たりの事業所数の割合が全国で一番高いにもかかわらず、大学などへの進学を機に県外に出た若者が、就職をする際には3人に1人しか福井には帰ってきません。

官民が協力して若者を対象にした「起業ビジネス塾」などを開き、若者のベンチャー創業や就業を応援することによって、これからの成長市場やグローバル化などに対応できる高度技術・ノウハウを持った人材を育成します。

IV-2 挑戦する農林水産業

わが国の食料自給率が4割と低迷する中、食へのこだわり、食品に対する安全と安心を求める国民が増えるなど、食を提供する農業、林業、水産業に対する国民的な関心が高まっています。また、アジアの国々においても、日本の安全で品質の良い食品などに対するニーズが高まっています。

その一方、日本の農林水産業は他の産業分野と同様、海外から安価な食料や木材、魚介類の輸入が増えるなど、グローバル大競争の影響が拡大しつつあります。

こうした時代に農林水産業の活路を開くためには、大都市に比較的近い福井の地理的優位性を最大限に活かしながら、他の業種や産業との連携を強めることによって付加価値を高め、販路を開拓していくことが重要です。

しかし、耕作放棄地が増加し、美しい福井の農地は年々荒廃しています。農業については、農地を保全し将来に残しながら、担い手の確保と農産物の高付加価値化を推進します。

また、日本屈指の好漁場である「福井の海」、多様な生態系を維持し清らかな水と空気を育む「福井の山」についても資源の保全と管理を強化します。農山漁村の豊かな資源を守り活かすことによって、福井の農林水産業の新たな展開の基礎とします。

こうした基盤の上に、農林水産業を福井の経済の「新たな成長エンジン」と位置付け、他の業種や産業との連携を強めて、より高い付加価値を創出します。

(1) 売れる福井の特産品群の育成

(2) 豊かな農山漁村の保全と活用

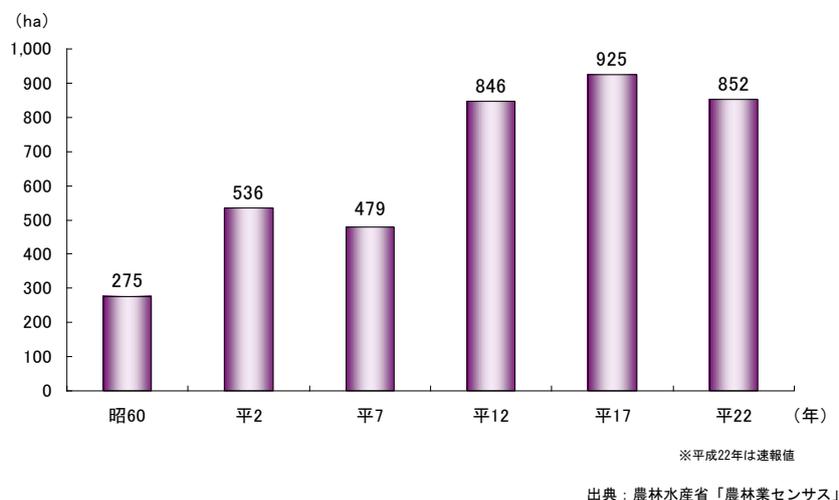
(1) 売れる福井の特産品群の育成

- 「日本一おいしい米」、「高品質な木材」、「新鮮な海の幸」など国内外のマーケットの評価を得て、安全・安心で付加価値の高い「売れる福井の特産品群」を育成します。
県内外やアジアにおいて販売ルートや市場を開拓することによって、「農林水産業を起点とする生産額」を大幅に増やします。
- 「五月半ばの適期田植え」や食味検査を広げ福井米の品質を向上させるとともに、エコ農業や作り手の顔が見える「こだわり米」の生産を拡大し、コシヒカリを生んだ福井の米の市場競争力を高めます。
- 「坂井北部丘陵地」を福井における企業的農業のモデル地域に育て上げ、県内に広げていきます。生産・加工・販売の各分野を取り込んだ農林水産業の「6次産業化」を応援し、それぞれが連携した地域モデルをつくります。
- 「森林生産力の増大」をスローガンに戦後進められてきた大規模な植林の結果、「ふくい森」では、今後多くの木が主伐期を迎えます。「木を伐って使う」時代に、森林所有者が協力して山から木を出す「コミュニティ林業」や林道などの基盤づくりを促進するとともに、県産材のブランド化と販売拡大を進めます。
- 「越前がに」、「若狭ふぐ」など福井自慢の地魚の鮮度や安心感を高めるとともに、「若狭のサバ」など新しいブランドを育てます。福井の旬の魚とおいしい食べ方を県内外の消費者に分かりやすく伝えることによって「魚を食べる文化」を広げ、消費を拡大します。
また、「越前若狭のさかな」のブランド力を活かし、漁家民宿などにおける観光誘客を促進します。
- 農林水産業への企業参入や新規就業などを促進するため、民間からの資金調達、企業間のネットワークづくり、支援のワンストップサービス化のための仕組みをつくり、高付加価値産業への転換を進めます。

(2) 豊かな農山漁村の保全と活用

- 県民の約6割に当たる約47万人が農山村部に住み、農業や農村と何らかの関わりを持ちながら暮らしています。また、県土の84%を森林と農地が占め、私たちの暮らしは豊かな「自然資本」の上に成り立っています。
農業分野における「ふくいの後継者」を確保し技能継承を進め、担い手として活躍する環境を整え、食料生産と美しい景観の基盤となっている農地の減少に歯止めをかけます。
- 整備が行き届いた農地やかんがい用水を福井の貴重な財産として適切に保全・活用し、将来へ引き継いでいきます。
公共工事や宅地造成などに伴う農地転用を最小限度に抑制し、「優良農地の保全」を優先した土地利用を推進します。
- 新鮮で安全・安心、顔の見える地元産の農林水産物を家庭、学校、企業などにおいて消費する「地産地消」をさらに広げます。また、家庭や学校などにおける「食育」の充実にもつなげていきます。
- 福井の自然や農林漁業を体験する教育旅行を、市町とともに推進します。作業体験や農山漁村における生活体験など、福井の食や文化、歴史を学ぶカリキュラムと受入体制を充実し、観光資源として全国にアピールします。
- 農林水産業や農山漁村には「癒し」の機能があります。障がい者の自立支援にも役立つ「園芸福祉」など、農林水産業や農山漁村とさまざまな分野とを組み合わせた新たな価値をつくり、広げていきます。

福井県の耕作放棄地の推移（総農家）



IV-3 アジアの成長と活力の取り込み

アジアの国々は、目覚ましい経済成長を遂げています。「アジアの時代」が到来する中、アジア大陸に対面する福井の地勢を活かし、アジアと関西・中京経済圏などをつなぐ「交流ゾーン」となって人流・物流を活発化させ、福井の活力を創出します。

現地進出企業、産業団体、県などがそれぞれの役割を發揮しながら連携し県内企業のアジア・マーケットへの進出を応援することによって、アジアの人びとの旺盛な購買力や観光ニーズを取り込み、福井の経済成長につなげます。

県民一丸となってアジアと関西・中京経済圏などとのネットワークを築き上げ、アジアの活力を最大限に活かす「共生と成長」の戦略を推進します。

(1) 販路を開くアジア・マーケットへの進出

(2) 人が行き交うアジア・ネットワークの強化

(1) 販路を開くアジア・マーケットへの進出

- 経済成長を続けるアジアは、生産拠点としてだけでなく消費市場としても急速に拡大しています。アジア全体の個人消費額は、10年後には約16兆ドルと現在の2.4倍、また富裕層も約2.3億人と現在の4倍に増加すると推定されています。

繊維・眼鏡などの地場産品をはじめ伝統工芸品、食などについて、高いデザイン力と信頼性により「福井の逸品」、「日本の逸品」として磨き上げ、アジア市場に積極的に進出します。

- 十分な市場調査をおこなうとともに、アジア進出企業、産業団体、行政が協力して新しいネットワークを構築し、県内企業のアジア進出をサポートする「商社」機能をつくることによって、初めて海外市場に進出しようとする中小企業や農林水産業者の挑戦を支え、アジアにおける人脈とビジネスを拡大します。

(2) 人が行き交うアジア・ネットワークの強化

- アジアの富裕層を主要ターゲットにした外国人向けの観光ルートづくり、海外における観光プロモーションなどを進め、福井を訪れる外国人観光客を大幅に増やします。
また、コンシェルジェ機能が強化された商業エリアを県内に広げるなど、アジアから観光客を受け入れるための基盤や環境を整えていきます。
- 県立大学など県内高等教育機関において、アジアをはじめ世界を相手に活躍するグローバルな産業人材を養成するための教育体制や研究機能を強化します。
- 福井の地理的特性を活かし、敦賀港や福井港を拠点とする環日本海物流ネットワークを築き上げます。
官民共働のポートセールスをおこない、韓国をはじめ中国やロシアに向けた「広角的な福井航路」を開きます。

都道府県別外国人延べ宿泊者数（平成20年）

